



新九郎通信



発行 小田原市栄町2-13-3 (株)伊勢治書店3F ギャラリー新九郎 木下泰徳
e-mail:kinoshita@iseji.net

今年も 窓を開けると蛙の合唱がにぎやかな季節になりました。風のつくりだす美しい水田のきらめきは 田植え前の贅沢な楽しみです。酒匂川もアユの解禁を迎え、6月の栢山は朝からにぎやかに明けていきます。

朝の散歩を復活させ 楽しみが増えました。初夏のさわやかな空気、草の香り、見知らぬ方との朝の挨拶、夫と話しながら1日のスタートを切る、平々凡々の喜びを感じる年になったということでしょうか。いよいよワールドカップの開幕。14日カメルーン戦19日オランダ戦24日デンマーク戦見逃せません。岡田ジャパンの活躍は楽しみです。新九郎も、皆さまのお越しをお待ちしています。



新九郎 6月の展覧会のご案内

会 期	展 覧 会 名	見 どころ
6/2.3.6.7(4.5は休)	三井節子写真展	溢れる美しい花・花・花の写真展
6/5(土) 午後2時開演	屋下がりの語りと朗読の会	第1部 シャンソン、語り 第2部 朗読劇 藤沢周平作「夜の道」
6/9(水)-6/14(月)	水彩画カトレア展	グループ展・風景画、花等の美しい水彩画
6/16(水)-6/21(月)	横井山泰展	岡本太郎賞特別賞受賞作家の5回目の作品展 パリ留学も決まり、張り切っています。
6/18(金) イベント	デッサン会	18:15~20:45 会費 1000円
6/24(木)-6/28(月)	籐を編む2010	モロ・ラタン・アートスクールの30名による作品展。 手提げ籠、くず籠、鉢カバー、フクロウ等の動物など。 【チャリティコーナー】収益の一部は「かながわトラスト基金」に寄付
6/30(水)-7/5(月)	新九郎アートフェア2010	草間弥生、横尾忠則、谷川晃一、重野克明・林武・向井潤吉他近・現代作家作品展

近隣・友の会会員の展覧会情報

掛軸常設展	6月3日(木)~6月20日(日)	ツノダ画廊
しぶき会展(染色)	6月2日(水)~6月7日(月)	飛鳥画廊
井上三綱展	6月10日(木)~6月21日(月)	飛鳥画廊(6月15.16は休み)
一線美術会小田原グループ展	6月23日(水)~6月28日(月)	飛鳥画廊
七宝展	6月30日(水)~7月5日(月)	飛鳥画廊
水墨画 西山慶子展	6月9日(水)~6月14日(月)	お堀端画廊
第四回 楽の会 水彩画展	6月16日(水)~6月21日(月)	お堀端画廊
シルク・綿・藍染め・自然素材の創作展	6月3日(木)~6月7日(月)	アオキ画廊
あさひたに ただし 淡彩画展	6月2日(水)~6月30日(水)	はげ八鯨
住谷重光展	5月1日(土)~6月29日(火)	ナヤカフェ・ギャラリー 宮ノ下(水・第4木/休)
陶・雨やどり二人展	6月10日(木)~6月14日(日)	ギャラリー&カチャーレ Bit★Garden(小台181)
いちかわれいこう「枝/葉/花/造形」	6月9日(土)~6月14日(水)	ギャラリー&カチャーレ Bit★Garden(小台181)
佐藤勝信・星竹と虫食い跡(アート展)	6月10日(木)~6月22日(火)	寄りあい処国府津
坂田和實・古道具展	6月3日(木)~6月9日(水)	うつわ菜の花
モンサカタの服展	6月12日(土)~6月21日(月)	うつわ菜の花

ようこそ平塚美術館

平塚美術館学芸員 勝山 滋

実際の「めざし」を美しいと思う人は、いるでしょうか。この「めざし」(1928年)は、桜の木に大ぶりの彫りで、骨や肉を秘めた立体感を湛えています。時間を越えたような存在感には、思わず手をあわせたくくなります。横田七郎の原点であり、高村光太郎をはじめ掌で鑑賞する小品彫刻の到達点を示す名品です。教養主義とロダン信奉が大勢を占めた大正期の彫刻群を過去のものとし、新たな昭和の息吹きが表れています。一方で源氏や伊勢物語を愉しむのと同じ伝統的な卓上芸術の香りが感じられます。



第7回 アトリエ訪問 横井山泰 海老名在住



相模原市上溝の住宅街にある大きな倉庫の一室。大学院修了から7年間3人の作家とシェアしているアトリエがある。高さが3m60はあるというアトリエで6、7月の個展に向け精力的に制作中の横井山泰さんをお訪ねした。

設置用の垂木や釘が打ちつけられた白壁は200号の作品も引きで見ることのできる十分な広さがあり、ここで朝9時から夜9時まで制作にあたっているのだという。白い壁の裏側は収蔵庫になっていて、大事な作品は2段の棚にしっかりと保管されていた。住まいのある厚木から相模線で30分。読書のできる通勤時間は日常を切り離すのにちょうどよい時間だという。年間100冊まではいかないが・・・というかなりの読書家でもある横井山さんは、今「天皇はどこから来たか」(長部日出雄著)で自分のルーツに興味を持つ。

横井山さんは昔から日本の古い絵画が好きだった。茶道をする母親と絵画好きで美術館によく連れて行ってくれた父親。伊豆の国市での子ども時代は日本昔話の世界に夢中になっていたと振り返る。横井山作品から醸し出される大和絵を感じさせる空間使い、少ない要素でクールに表現する日本の美意識は、日本美に満ちた彼の環境から生まれたものだったのか。横井山さん独自の観るものをひきつける色彩は油絵具による。きれいな発色、なかなか乾かない性質、彼のペースにぴったりな油絵の具へのこだわりは、「自分にとって唯一絵の中に踏み込むことのできる素材」なのだという。現代アートの作家でありながら、光淋 若冲 等伯 荒木又兵衛に惹かれている。作品にはよく動物や鳥が登場するが人間も動物も、太古の人も今を生きる人も、気持ちやその移り変わりに違いはないと言い切る。人間を表現する独自の目は鋭く温かい。

何の疑問も持たず好きな絵を存分に描くことに没頭した大学の4年間。現代アートに興味を持ったのは、大学院で出会った本江邦夫氏の言葉からだ。「今現代に生きていることを表さなくてはいけない」今まで自由に好きな絵を

描いていた自分に自問し、この言葉の意味を考え苦闘した。そして生まれた作品「わるいくせ」は岡本太郎記念現代芸術大賞特別賞を受賞した。「恰もよし」「山や岩」「物おもう頃」「ききみみ」短い言葉に作家の今を伝える個展のDMは今やすっかり浸透してきた。新九郎5回目となる今回のタイトルは『日の目』。

今年9月から横井山はパリに行くことになっている。文化庁在外新進芸術家海外派遣制度での晴れの留学である。現代アート作家に人気があるドイツ、ニューヨークではなく横井山はパリを選んだ。エレガントなものが評価されるパリは、自分の作品の持つ雰囲気にも合うという直感が大きな理由だ。ヨーロッパの中心パリは、絵を好きになったきっかけエコール・ド・パリの地でもある。美術学校に入学し環境の異なる中で絵の基礎力を学び直したいと研究テーマは明確だ。画家として7年、順調に活躍してきた若手作家にも制作するなかで大きな壁が立ちあがるのが周期的にあるのだという。その壁の前では自身の基礎力不足を感じてきたのだと本音を吐露した。文化、歴史、思想、環境の異なる国で是非学び直したいと留学の機会を狙っていたという。今年34歳になった。3たす4はラッキー7とこの1年にかかる思いは大きい。とかく人間関係が希薄だといわれる世代にあって彼の周りにはいつも人の輪ができる。取材に伺ったこの日もこれから明治記念館での食事会に出かけるとのことだった。昨年から習い始めたフランス語をネイティブフランスの方々に通じるか試すことのできる機会と張り切っていた。仕事の締めは丁寧に絵筆を洗い、モップと箒で掃き清めた。誰もいないアトリエは整然とした姿に戻り、壁の作品の表情がリアルに語りかけてくる、そんな気配を感じたアトリエ訪問だった。(新九郎友の会 木下和子)



五月のこと
*飛鳥画廊でのあらたま展に出品した。三三年の歴史を持つが、先生も弟子もない自由で楽しい会である。新九郎友の会会員も多数出品している。
昔、井上画材店で、デッサン会のポスターを見た加藤さんが、勉強してみたいという店のお嬢さんが親切に案内してくれたそう。そのお嬢さんが今回新しく加わった生江さん。東京で制作・発表を続けていたが、地元小田原でもいいグループがあればと探していた折、住谷さんの誘いで参加された。創立は清原さん五〇歳、加藤さん二八歳の時。清原さんは四五歳位から絵をはじめたそうであるが、最近の絵は凄さを増している。最年長の里見さんは八八歳、今も毎日城址公園にスケッチにでかけている。こういう先を歩いている先輩がいることが目標になる。メンバーが色々な所で出会う、つながっていく。改めて『縁』の大切さを知った。新九郎でもいろんなグループの方にお使いたい。それぞれに歴史があることだろう。そんな『縁』を新九郎も大切にしていきたい。
*小田原美術館を作る会「懇談会」は、五回を持って終了した。学芸員、作家、美術愛好家、ギャラリ、美術団体、議員、行政、教育関係者と幅広い有識者の参加を得て意見・情報交換がなされ、当初の目的を果たすことができ、市の現状や課題も上がり、進むべき道が見えたことは大きな成果と受け止めた。今後は自主研究会としてアートを通して心豊かな体験をしていただける具体的な「小さな一歩」を、この会から始めたい。今後も月一回開催していく予定です。志のある方の参加をお待ちしています。
(平)



第8回「西さがみ街なみ・ふる里再発見！展」

～西湖地域の魅力を再発見する作品を募集します～
美術展を銀座通り六つの画廊で同時開催いたします
審査・賞などはありません。応募された全ての作品を展示します

募集作品 絵画・絵てがみ・写真・ポスター (一人2点まで)

応募期間 6月17日(木)～6月29日(火)

※詳しくは応募要項をご覧ください(下記又は銀座通りの画廊にあります)
<応募先・お問合せ>

小田原市栄町2-13-16 銀座情報プラザ内(アプリ向い)

「西さがみ街なみ・ふる里再発見！展」実行委員会事務局

TEL 0465-22-0661 FAX 0465-22-0807 又は担当木下迄 090-9324-4084

展覧会会期 7月8日(木)～12日(月)

会場 アオキ画廊・飛鳥画廊・コットン倶楽部・新九郎・ツノダ画廊・エホール

主催 小田原銀座商店会 後援 小田原市、小田原商工会議所他

スケッチ会・城址公園を描こう

第8回「西さがみ街なみ・ふる里再発見！展」では作品を募集しています。

城址公園でお気に入りの場所を、絵に描いてください。完成した作品はエホ・ホールに展示されます。(7/8～7/12)

日時 6月13日(日)9:00-11:30(雨天中止)

場所 小田原城址公園 銅門前集合

対象 児童

持物 水彩絵の具セット・画板

※画用紙は主催者が用意します(八切)

講師 齊藤四郎先生

参加費 200円(保険料)

主催 小田原の文化と教育を語る会

申込先 木下泰徳 090-9324-4084

